

国内での「外部評価」の試行における
成果と課題について

稲田尚子

外部評価システム

事前

- 事業者の自己評価

訪問

- 事業者の面談・個別支援計画書等書類の閲覧
- 支援の現場の観察
- 本人・保護者との面談・アンケート調査

事後

- 評価報告書作成（長所の抽出と改善に向けての支援）
- 外部評価事務局との合議・総合評価の決定

評価者マニュアル：着眼点

子ども一人一人は、余暇スキルのレパートリーを増やすための支援を受けている

着眼点

- ・ アセスメントされているかどうか
- ・ 目標が妥当かどうか
- ・ 余暇スキルを増やすための支援が行われているかどうか

評価者マニュアル：解説

解説

余暇スキルの支援は忘れられがちであるが、子どもの現在・将来のQOLを高め、保護者の負担を軽減するためには重要なスキルである。余暇スキルの支援も意識しているかを確認する

事業者との面談の留意点

- 可能な限り、客観的な証拠（書類や記録等）を目視で確認する
- 最初はオープンな質問をして、“どのように” サービスを提供しているかを大まかに確認し、その後細分化した項目の聞き取りに移っていく

例：事業所と家庭、関係機関との連携はどのように？

- やっているかどうかの有無ではなく「質」を評価という視点

評価者養成講座

- 外部評価の目的と概要
- 実施手続き
 - 事業者の面談
 - 個別支援計画書等書類の閲覧
 - 支援の現場の観察
 - 本人・保護者との面談、アンケート調査
 - 報告書作成
 - 事務局との合議・総合評価判断
- 質疑応答

評価者養成講座

講義・ロールプレイ・リハーサル



評価者養成講座



2019年度の外部評価トライアル実施状況

施設・事業種別	実施数
放課後等デイサービス事業	37
児童発達支援事業	32
保育所等訪問支援事業	11
居宅型訪問発達支援事業	0
入所施設（医療）	2
入所施設（福祉）	2

計 84

2019年度のトライアル施設の総合評価

総合評価段階	%
S：特に優れている	1.4
A：優れている（改善の余地が部分的にはある）	43.5
B：改善の余地がある	31.9
C：改善の余地が大きい	21.7
D：明らかに水準に達していない	1.4

協力的な施設・事業所の中でも段階的な**評価の分類が可能**

事業所の評価結果の特徴の概要

- 全事業所・施設共通

- 保護者、利用児への関わりが**共感的**

- A・B評価にあり、C・D評価にない

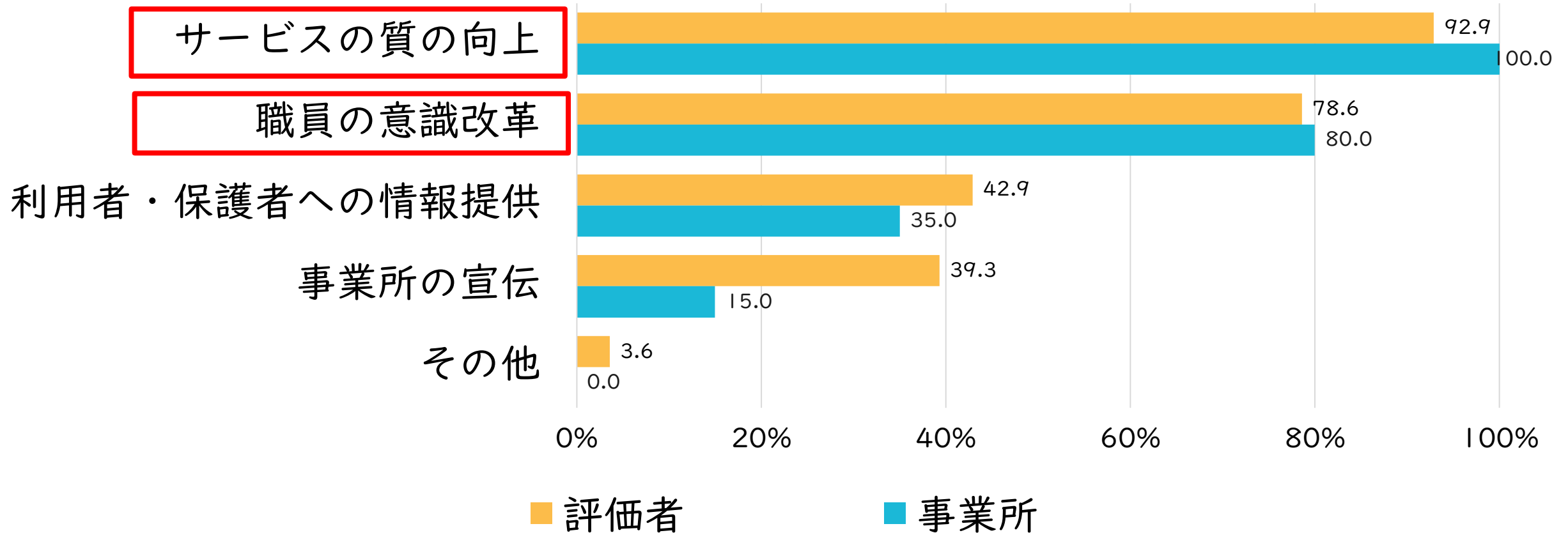
- **妥当なアセスメント**の実施の有無

事業所の評価結果の特徴の概要

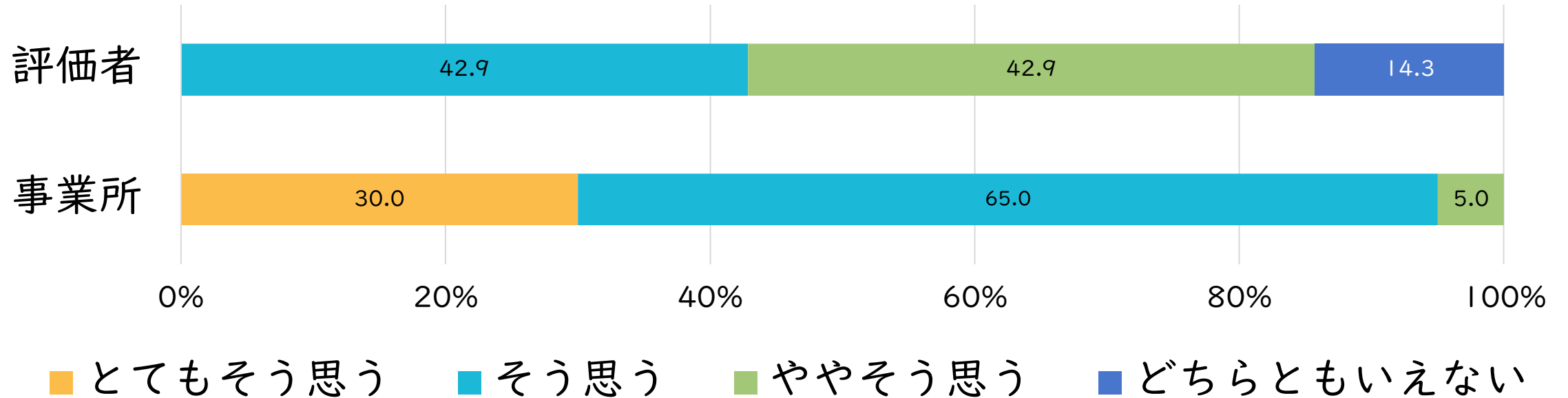
■ A評価にあり、B評価にない

- ー アセスメント結果と目標設定・支援計画・支援活動の
具体的内容との有機的なつながり
- ー 個別設定と集団設定との適度なバランスミックス

外部評価を受ける目的

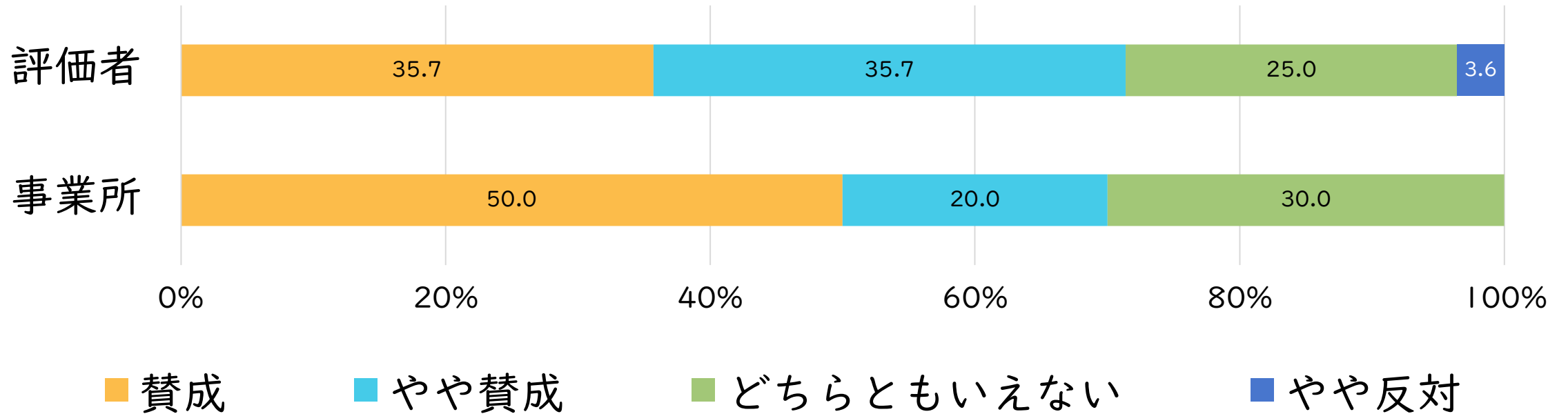


外部評価の項目の妥当性



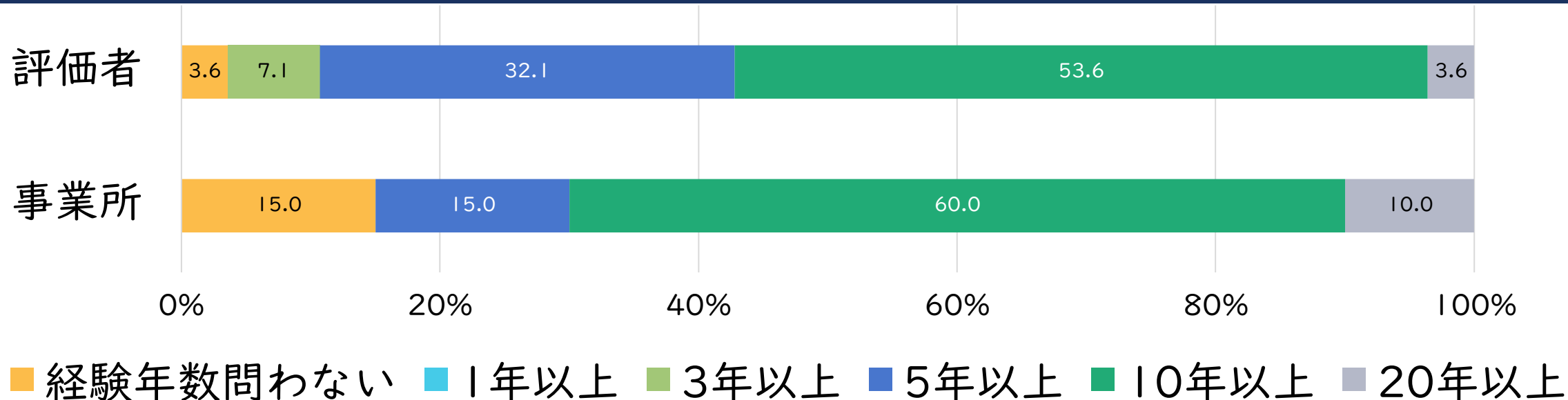
評価者、事業者ともに、
外部評価の項目はおおむね妥当であると回答

5段階の総合評価への許容度



評価者、事業者ともに、
5段階の総合評価に**おおむね賛成**している

評価者に求める経験年数

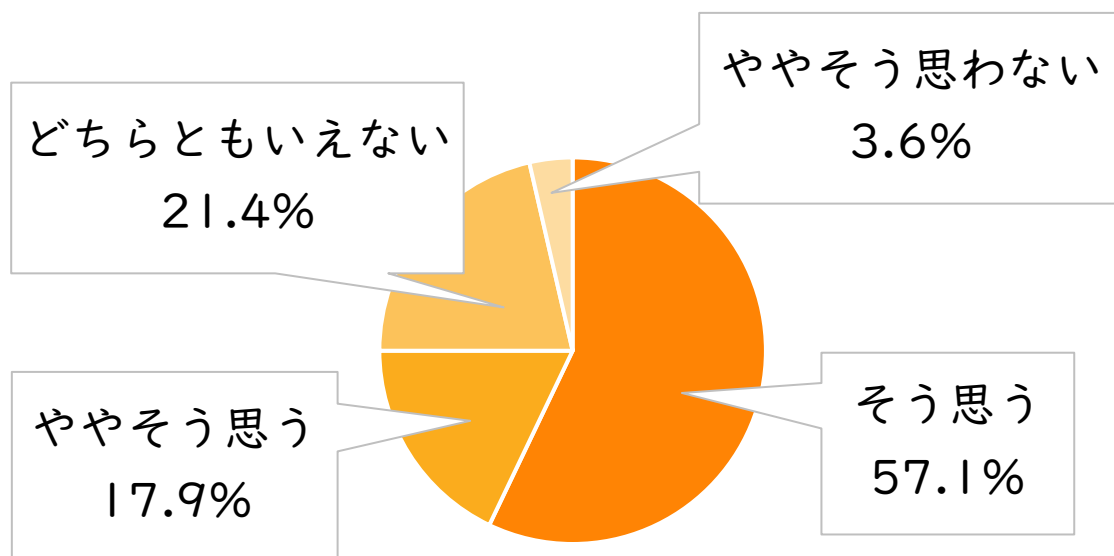


評価者、事業者ともに、
10年以上の経験を求める声が半数以上

評価者としての実施可能性

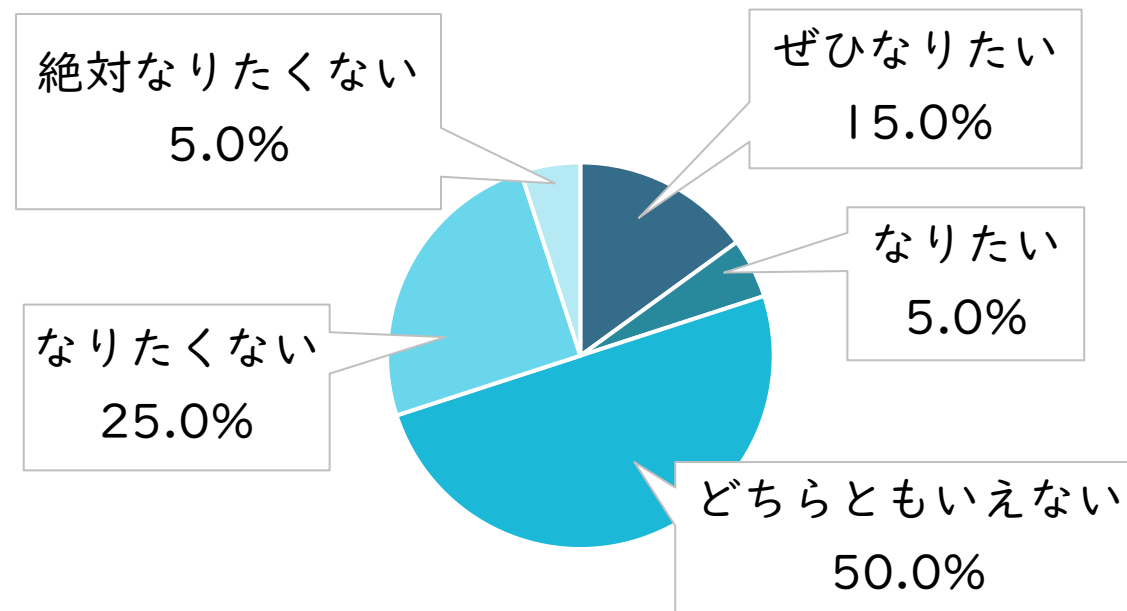
評価経験者：

評価者になることへの希望

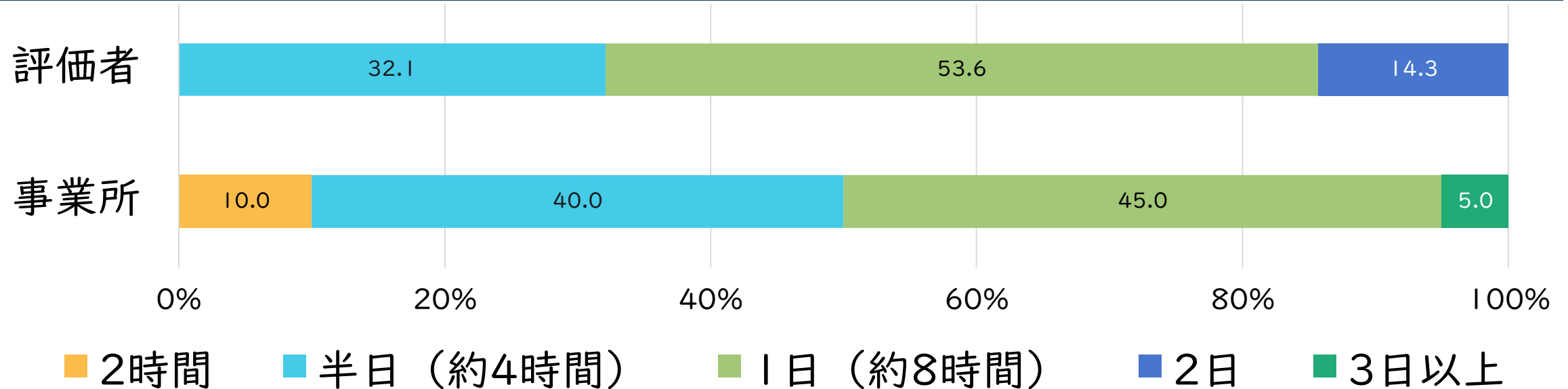


事業所責任者：

評価者になることへの希望

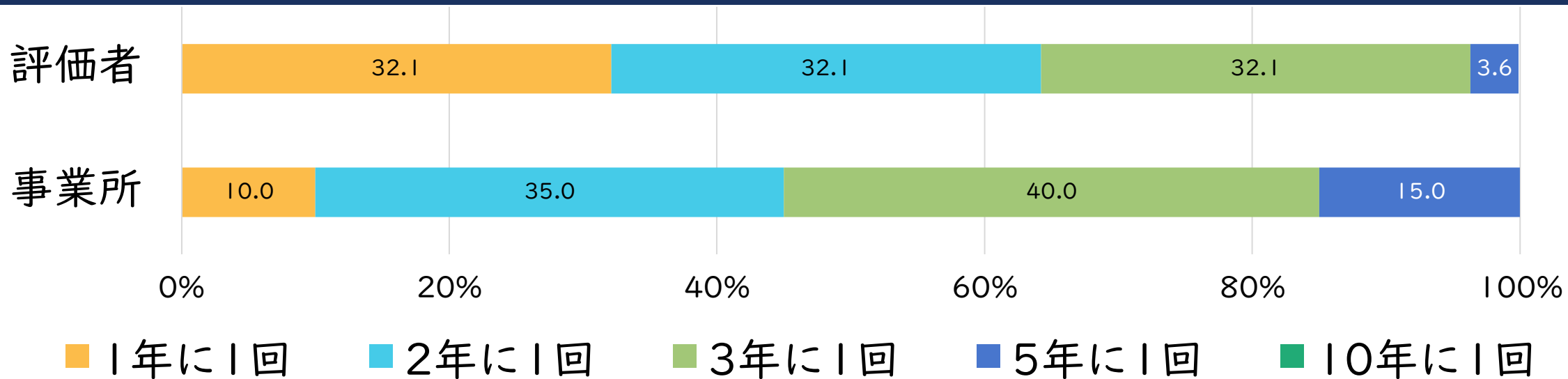


外部評価（訪問）に妥当な所要日数



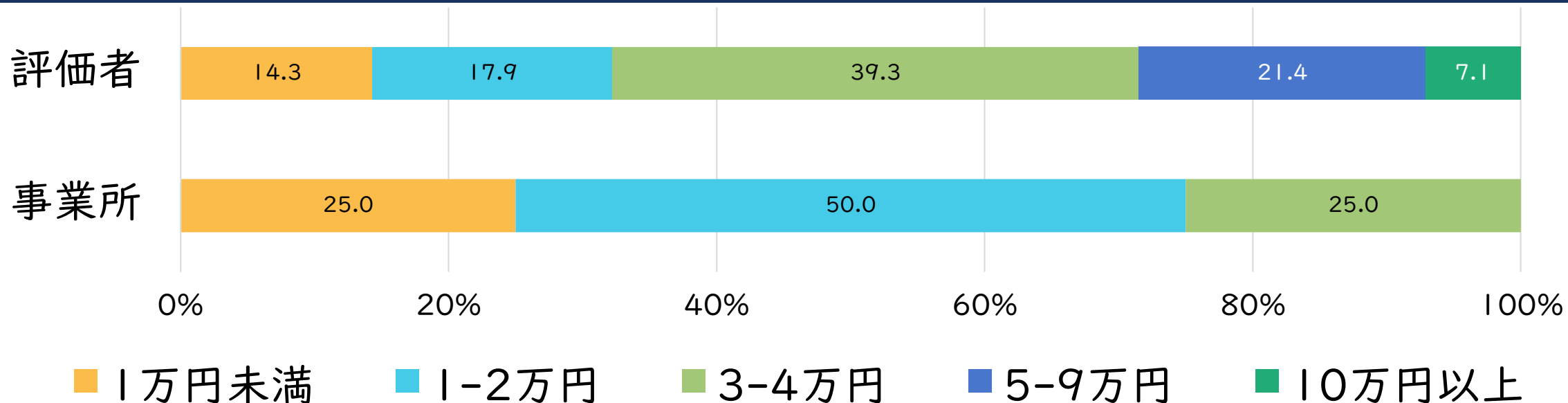
評価者の約半数は1日を求めるが、
事業所は半日と1日が同程度

外部評価に妥当な頻度



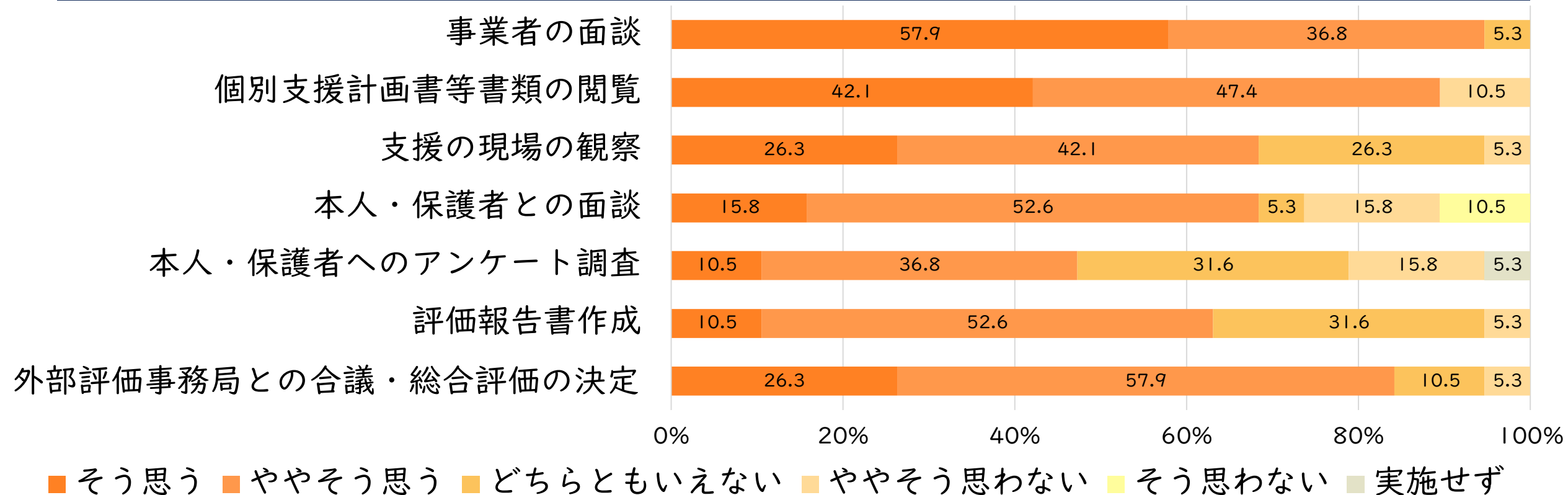
評価者は 1・2・3年に1回が1/3ずつ、
事業所は 2・3年に1回が同程度

外部評価に妥当な費用

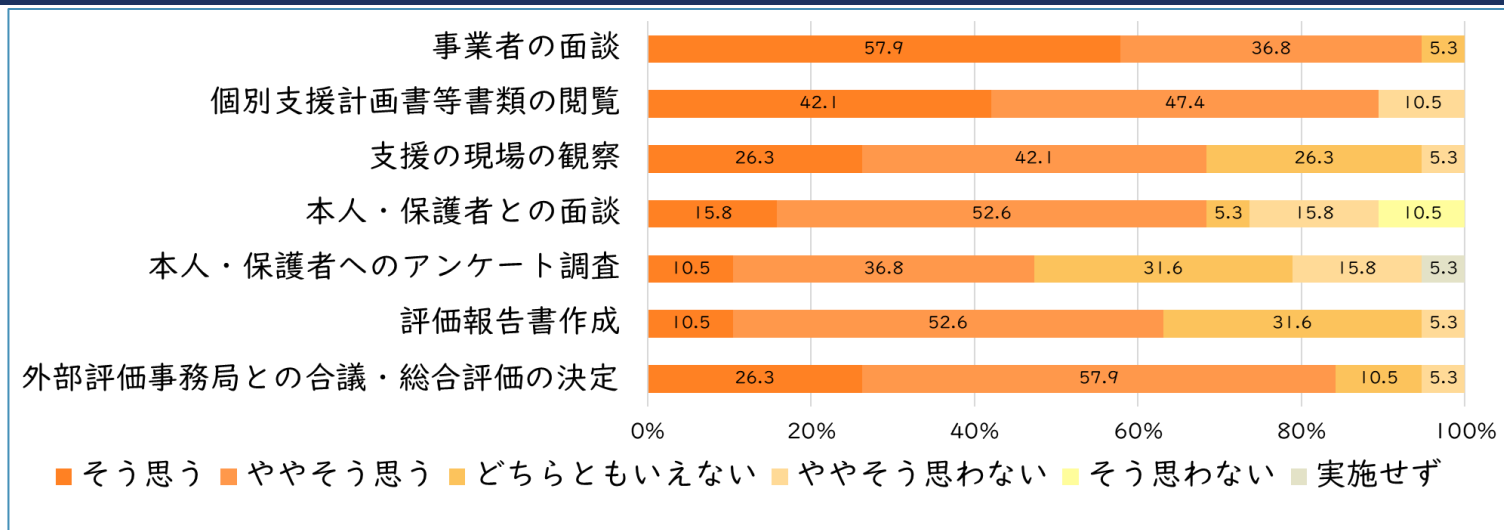


評価者は **3-4万円** とする意見が多いが、
事業所は **1-2万円** が半数

評価者対象：各手続きの実施の容易さ



評価者対象：各手続きの実施の容易さ



事業所の面談、書類閲覧、事務局との合議は相対的に容易
現場観察、本人・保護者との面談・アンケート、報告書作成は相対的に困難

外部評価試行の成果と課題

- 開発した外部評価システムは、**一定程度の有用性**が示された
- 研究助成期間は終了し、**今後実装**に向けたさらなる改善と取り組みが必要
- 外部評価の**実施主体**、評価者の**養成**、事業所の**費用・時間負担**などの検討
- 事業所・利用者に分かりやすい**受審結果の提示法**の検討
 - －何をどのように公開していくのか？

研究助成および研究分担者

本発表は以下の研究助成を受けて行われました。

- 平成29－30年度 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）障害児支援のサービスの質を向上させるための第三者評価方法の開発に関する研究
- 令和元年度 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（身体・知的・感覚器等障害分野）障害児支援のサービスの質の向上のための外部評価の実施とその検証のための研究

研究分担者（五十音順）：安達潤（北海道大学）・内山登紀夫（大正大学）・宇野洋太（大正大学）・小澤温（筑波大学）・齊藤真善（北海道教育大学）・堀江まゆみ（白梅学園大学）堀口寿広（国立精神・神経医療研究センター）・松葉佐正（熊本大学医学部附属病院）・渡辺顕一郎（日本福祉大学）

謝辞

本発表にかかると調査にご協力頂いた、お子さまと
その保護者様、事業所、関係者の皆様に深謝いたします。